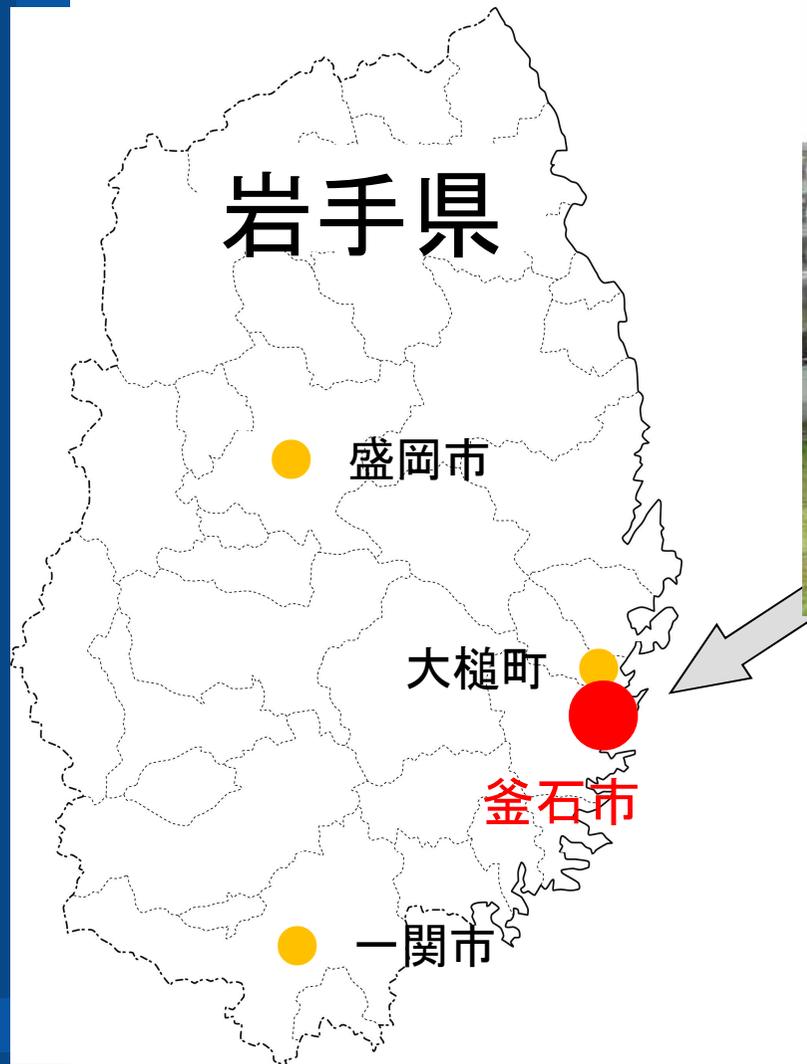


**「総合的な学習の時間における
防災教育の実践例」**
～釜石市立釜石東中学校の取組～

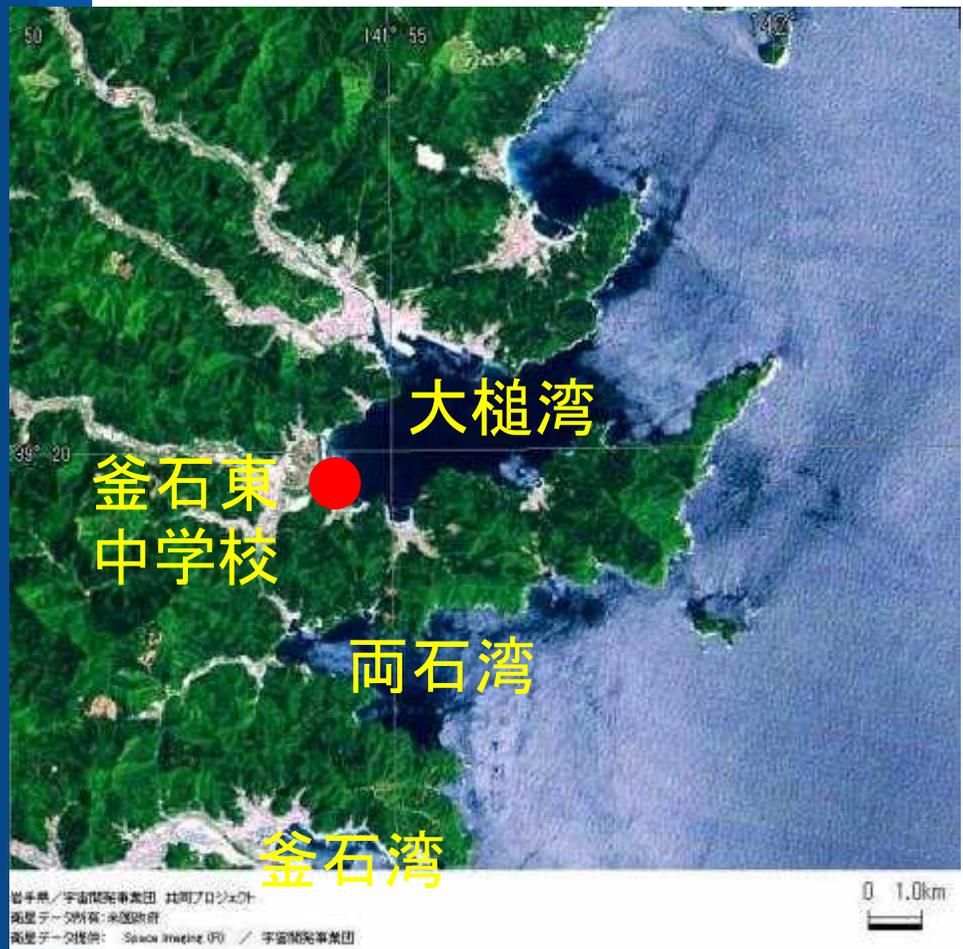
岩手県教育委員会
学校教育室
森本 晋也

I 釜石東中学校について



震災前の釜石東中学校

根浜海岸のすぐ近くにある
鵜住居小学校が隣接



震災直後の釜石市鵜住居地区



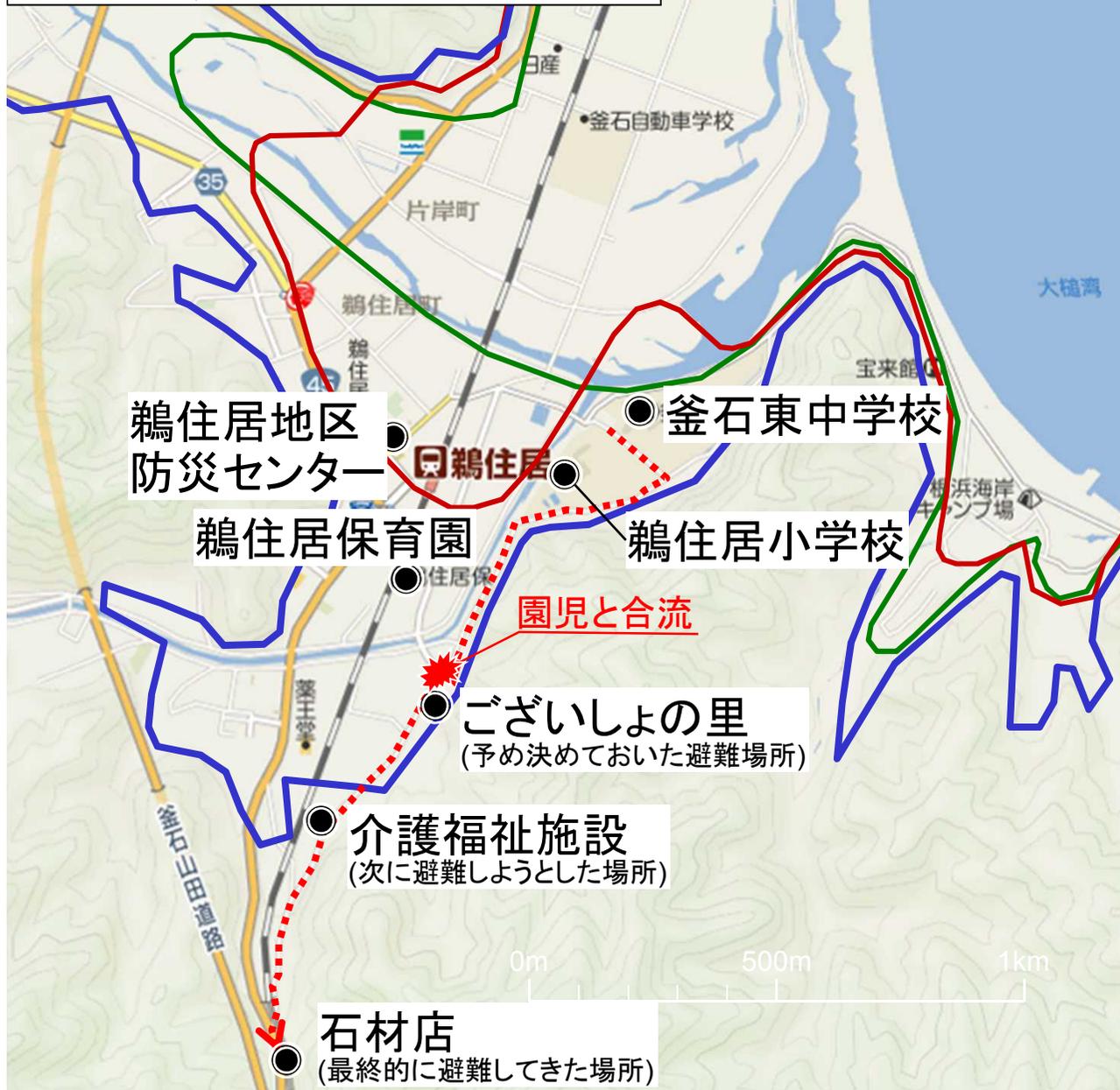
震災直後の釜石市鵜住居地区

鵜住居小学校
3階に突き刺さる車



群馬大学片田教授 作成

- 今回の津波浸水範囲
- 過去の実績(明治 or 昭和)
- 津波浸水区域(HM)

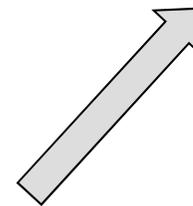


避難の様子、被害の様子

山が崩れている。
さらに高いところへ
逃げよう



第一避難場所(ございしよの里)



釜石東中学校(3階まで被災)

写真撮影 群馬大学片田研究室、地域の住民の方(浦山氏)



第二避難場所へ逃げる



第二避難場所からさら高台へ

写真撮影 地域の住民の方(浦山氏)

Ⅱ 釜石東中学校の防災教育の取組

防災教育の取組のきっかけ

必要感

(1) 津波災害の常襲地域

{ 学校・地域の地理的状況
この地域で生きていくために

(2) 防災教育プログラムの開発・実践 └ 釜石市防災教育支援事業の協力校

(3) 地域との防災への共同での取り組み

{ 日頃の地域のとのつながり(生徒会活動、総合など)
地域の自主防災組織の高まり

【防災教育のねらい】(2009年度)

1. 自分の命を自分で守る

～津波・地震の知識を身につけ、避難できる生徒の育成～

2. 助けられる人から助ける人へ

～家族・地域社会の一員としての自覚を高め、行動できる生徒の育成～

3. 防災文化の継承

～防災文化の継承者の育成～

【ねらいを達成するために】

1. 津波を知る、避難方法を知る、地域を知る。(知識・理解)
2. 日常生活においても、考え、判断する。(思考・判断)
3. 避難訓練や防災ボランティアストにおいて実践する。
(行動)

「EAST-レスキュー」

	1年生	2年生	3年生
共通	防災オリエンテーション、小・中合同避難訓練、小・中合同地区集会、防災ボランティアスト、地域の避難訓練		
教科	ゆれる大地(理科) 耐震技術(技術) 地域調査(社会) 防災ポスター(美術) 他	自然災害(社会) 災害に備える(保健) 安全対策(家庭) 防災ポスター(美術) 他	地域での支え 合い(社会) 防災ポスター(美術) 他
総合	「てんでんこ」 (体感学習、フィールドワーク、ビデオ制作、率先避難)	「Tsunami」 (津波防災館訪問、防災ボランティアストの劇化)	本所防災館訪問 (修学旅行において学習)
道徳学活	「災害ボランティア」 (道)	「避難しない人の心理」(学)	「語り伝えよ」(道)

防災オリエンテーション学習

「揺れの小さい地震では、津波の心配はない。」
A 正しい B 間違っている



全校防災学習

「EAST-レスキュー」

East: 東中生

Assist: 手助け

Study: 学習する

Tsunami: 津波

- ・防災に関する知識
- ・1年間の学習への動機付け

特別活動
(学校行事)

小・中合同避難訓練



・鵜住居地域会議議長の浦山さんからも、避難についてのお話をいただきました。

・小・中連携、地域との連携への一歩へ

小・中合同地区集会



もし、津波から逃げなければならぬとき、どこに避難すればよいか、分かりますか？

- ・お互いに自己紹介をしましょう。
- ・地域の危険なところを確認しましょう。



- ・小学生と中学生が顔見知りになる。
- ・地域での生活において中学生に責任を持たせる。

ねらい

- ① 防災ボランティアの学習を行うことで、「助けられる人」から「助ける人」への意識を高める。
- ② 地域と連携することにより、家庭や地域社会の一員としての自覚を高め、災害時に行動できる生徒を育成する。

取り組みの流れ

- ① 事前：周知、事前アンケート、活動内容の決定、生徒リーダーの決定、協力者との事前打合せ、生徒リーダーとの打合せ、道徳授業
- ② 活動：事前計画・準備2回(9月18日・24日)
本番(9月25日)、振り返り(10月)
- ③ 事後：文化祭での展示発表

○グループの数：11グループ(1グループ当たり20人程度)

○内容：防災マップづくり、救急搬送、応急処置、水上救助、炊き出し、防火訓練、フィールドワーク、安否札・防災チラシ配布、防災頭巾づくり

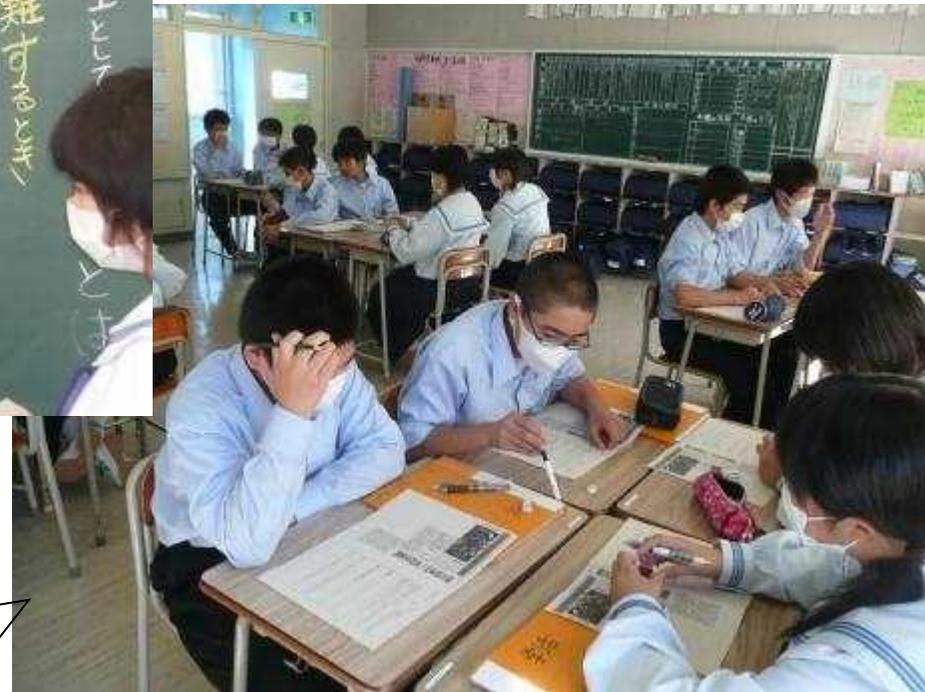
○協力者：市防災課、消防署、日赤支部、消防団、自主防災組織、町内会、民生委員

道徳「災害ボランティア」



・自分たちにできることは、何だろうか？

・避難する時や避難した後は、どんなボランティアができるだろうか？



・地域社会の一員としての自覚を持たせる。

事前準備の様子

防災ボランティアースト

「救急搬送」の練習



「応急手当」の練習



「防災マップづくり」下調べ



「安否札」づくり



活動の様子

安否札・チラシ配り、防災マップづくり

手作りの安否札・防災チラシの配布



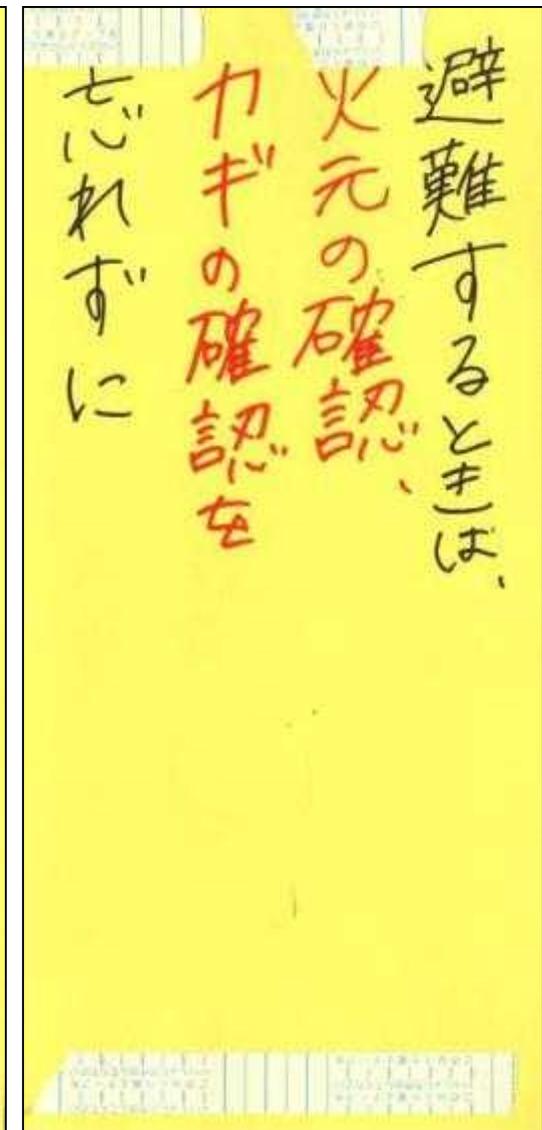
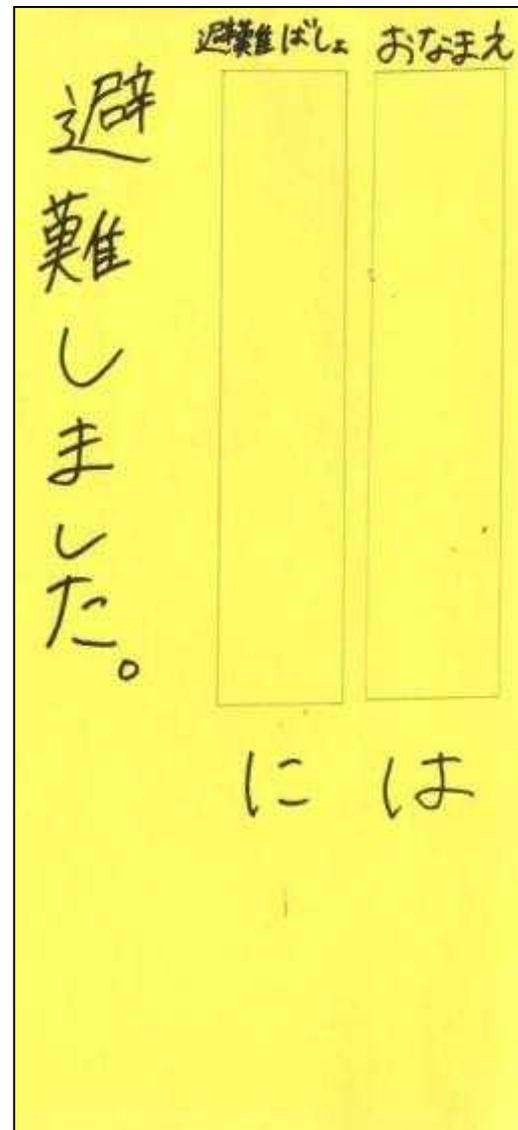
防災マップづくり



安否札の配付



一人暮らしの高齢者のお宅を中心に、民生委員さんの協力を得て、配付した。



生徒の手書き

左(表)／右(裏)

防火訓練, 救急搬送, 水上救助, 応急処置



両石・片岸地区での学習(自主防災組織) 災害時の炊き出し訓練、防災頭巾づくり



生徒の感想



○地震が起こった後、15分ぐらいで津波が来るかもしれないので、自分たちがしっかりと避難場所を把握して、逃げる手助けをしたい。

○いつ起きるか分からない災害が、もし起きたときに、ケガをしている人たちを率先して手助けしたい。

○臨機応変に対応し、自ら進んで、そこらにあるものを使い、処置したい。

○自ら進んで地域への活動をしたい。もしもの時、お年寄りの家に行きたい。

○実際水の中で人を助けることは、楽勝だと思っていたけど、今日やってみてすごく難しかった。…あわてないで、習ったことを自分でできる範囲で助けたい。

○災害にあった人の精神状態は不安定になるので、あたたかい声をかけてあげて、助けられる側から助ける側になりたい。

○津波がここまで来たのかと思った。本当に来たらのみこまれてしまうと思った。大人がいなくても自分たちで担架をつくり、ケガした人を運べるようにしたい。

○ここは、災害が起こりやすいことを学習した。なのにお年寄りの方が多いので、災害が起こったら大変なことになると思った。災害発生時には、自ら進んで地域への活動をしたい。

避難時に実際に使われた安否札



避難時に実際に使われた安否札

【ねらい】

1. 津波について、**体感**する。
2. 地域を**自分たちの足**で歩き、津波の歴史や体験談から、防災について学ぶ。
3. 先人たちの教えを**多くの人に広める**。

【具体的な学習内容】

- ①オリエンテーション(「インド洋大津波」に学ぶ)
- ②地震の体感(起震車体験)
- ③調査学習(フィールドワーク)
- ④津波の体感(高さ、速さ)
- ⑤学習のまとめ(調査学習のまとめ、構成詩の作成、文化祭での学習発表、自主制作ビデオ「てんでんこ」)

①津波を体感する ～高さ～



②津波を体感する～速さ、揺れ～



- ・生徒と保護者で震度7を体験した。
- ・家で、家具の倒壊等の危険を点検する。

・家庭で、防災について、話し合う機会にする。



③調査学習(フィールドワーク)の計画

ねらい

- ① 津波の被害の大きさだけでなく、当時の人々の苦労や先人の知恵、苦労を乗り越えるたくましさなど、先人の生き方に学ぶ。
- ② 津波など災害からどのようにして自分たちの命を守ればよいか学ぶ。
- ③ 学習して学んだこと(災害文化)を全校、地域の方々に伝える。

取り組みの流れ

- ① 事前活動:オリエンテーション、課題づくり、質問書づくり
- ② 調査活動:7月14日(火)3校時~5校時:フィールドワークの実施
- ③ 事後活動:調査学習のまとめ、お礼状作成

○調査地域:()はグループ数 全部で18グループ

鵜住居地区(①)、両石地区(⑤)、箱崎地区(②)、片岸地区(②)、
釜石市郷土資料館(④)、旧釜石町(②)、市防災課(②)

○調査内容:津波被害の歴史、津波記念碑、復興に向けて(チリ津波)、
昭和三陸大津波・チリ津波の体験談、市の防災の取り組み、地域の
言い伝え

○協力者:地域の町内会、市防災課、市教育委員会、市郷土資料館

③調査学習(フィールドワーク)



- ・地域に残されている津波記念碑などの史跡調査。
- ・チリ津波などの体験談の取材。
- ・郷土資料館で、これまでの津波の歴史と被害の様子を取材。等

④自主制作ビデオ「てんでんこ」



- ・これまで学習してきたことの中から、**多くの人に伝えたい**ことをビデオにしました。
- ・「**祖父や祖母たちが、玄関のくつをそろえておくように**という意味が分かった。」

・地域で学んだことを地域の多くの方に伝える。



文化祭での発表(「総合的な学習の時間」の発表)

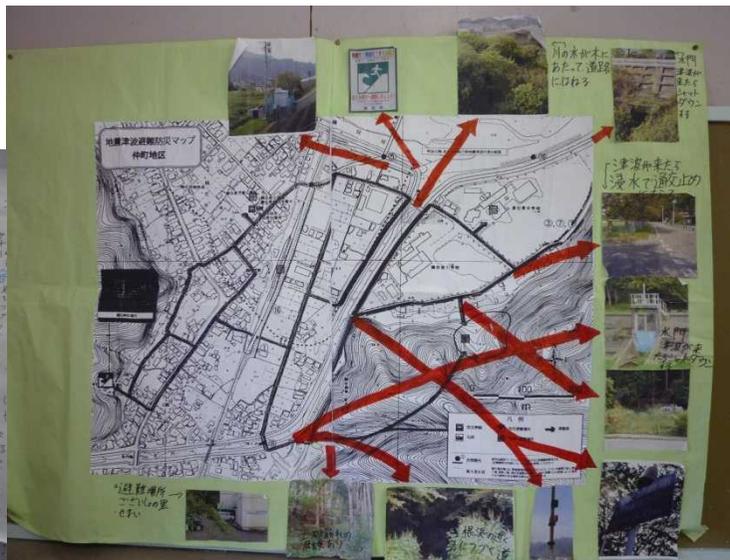
2年生「Tsunami」



1年生「てんでんこ」



全校総合
「防災ボランティアスト」



Ⅲ 「総合的な学習の時間」における取組による成果と課題

【成果】

- ① 生徒たちの主体的な**学習活動の時間を保障**することで、地域の方々と直接関わる体験活動を通して、地域に貢献・参画しようとする態度の育成を図ることができたこと。
- ② 「総合的な学習の時間」と避難訓練や教科・領域の学習を**関連づける**ことで、知識と体験活動が結びつき、生徒たちの主体的な態度の育成につなげることができたこと。

【課題】

- ① 「総合的な学習の時間」は、キャリア教育をはじめ、様々な学習課題が**学校や地域の事情等から設定**されており、必ずしも「防災」の学習に充てることは限らないこと。
- ② 「防災」を学習課題とした全体計画を立案し、コーディネートする教員の資質の向上と校内の体制づくりが必要であること。